

英語科学習指導案

指導者 松 村 健

日 時 平成 26 年 11 月 22 日（土） 第 2 校時（11：05～11：55）

年 組 中学校第 1 学年 2 組 計 39 名（男子 21 名，女子 18 名）

場 所 中学校第 1 学年 2 組教室

題 材 日本でのホームステイ

題材について

田中・田中（2009）は、「発問」を生徒が主体的に教材に向き合うように、授業目標の達成に向けて計画的に行う教師の働きかけと定義している。田中・島田・紺渡（2011）は教材の深い理解を促すには推論発問が必要であると述べている。「推論発問」とは、対話の情景や言語の働きを捉えるような発問のことを指す。つまり、発問には生徒の思考活動へ刺激を与える機能があり、この機能が対話文読解において思考を深め、内容を深く理解する一助になると言える。本題材においても推論発問等を取り入れることで、ことばの持つ意味やニュアンス、対話場面や状況を捉えることができると考える。本題材はオーストラリアから来日している Luke とホストマザーの Emi との対話文である。対話場面は、2 人が買い物へ行く道中と帰宅後の対話である。対話を通して、生徒は日本とオーストラリアの交通マナーの違いやホストファミリーの家族の様子を学ぶことができる内容となっている。対話文で取り上げる主な文法は現在進行形である。現在進行形について Declerck（1991）は、現在の「計画」や「取り決め」から予期される未来の出来事を表現することができるとしている。田中・佐藤・阿部（2006）は、like のような状態動詞は本来的に継続の意味合いを含むので、継続性を進行形で表す必要はないが、I'm loving it. のように特殊な意味合いを強調したいときには用いることができるとしている。このように、現在進行形には様々な意味やニュアンスがある。本題材では、異文化やホームステイの様子についてだけでなく、現在進行形の様々なニュアンスを学ぶことができると考える。さらに発問の工夫を通して、単純な対話内容の理解だけでなく、対話場面や状況の理解やことばが持つ意味やニュアンスも捉えることができる題材である。

本学級には、明るく元気な生徒が多い。全員が小学校で英語活動を経験しており、中学校入学後も、英語の授業に積極的に参加している。1 学期末に実施したアンケートによると、1 学期に行った推論発問を導入した授業では、対話場面や状況を発問によって捉えることに面白さを感じている生徒が 8 割程度いる。しかしその面白さは、対話文を根拠として考えたものではなく想像で考えた場面や状況に起因していることもあり、8 割という高い数値となっている。また、ことばの意味やニュアンスから対話場面や状況を捉える発問については、ことばから状況を把握することに面白さは感じているものの、難しいと思っていることも分かった。本題材で扱う現在進行形は既習事項である。現在進行形がいわゆる静止画ではなくビデオムービー的な描写をしており、そのニュアンスを理解させるために状況を描写する表現活動も行っている。

以上のことを踏まえて、指導にあたっては、次のことを留意する。まず、書かれているおおまかな事実を把握させるために、対話文の読み取りと現在進行形に関する発問をし、生徒の理解度をとらえる。現在進行形については、1 minute talk で取り上げて意味・形・用法をおさえる。次に、対話場面に関する推論発問をし、対話している人の人間関係や場所等をとらえさせる。その際、想像から生まれた答えにならないように必ず対話文にある根拠に基づいて答えさせる。さらに、現在進行形に着目する推論発問をし、同じ形の現在進行形を含む英文を比較することで、予期される未来の出来事を表現できることを理解させる。さらに、ことばの意味について考えさせて、状況を把握できるように繰り返し発問を取り入れたい。

指導目標

1. 対話文の状況を理解できるようにする。
2. 現在進行形の意味やニュアンスを理解できるようにする。

指導計画

1. 対話場面①の読み取り，現在進行形の理解 1 時間（本時）
2. 対話場面②の読み取り，現在進行形の理解 1 時間

本時の目標

1. 発問を通して，対話文の状況を理解することができる。
2. 既習の現在進行形と比較して，対話文中の現在進行形 *I'm coming.* の意味を理解することができる。

「学びのつながり」の視点

Warm-up では，フォニックスを取り扱う。Ⅱ期前期では3文字程度の英語を Zoo Phonics を用いて指導している。一方Ⅱ期後期では，ay や ear などアルファベット1文字ずつでは対応できないフォニックスを取り上げ，音読させたり，音読筆写させたりして，文字と音のつながりについて理解できるようにする。

次に，対話文の状況を理解させる。Ⅱ期前期では，対話場面の状況に関する発問を通して，状況を把握できるようにする。Ⅱ期後期では，それに加えて，ことばの持つ意味やニュアンスに着目しながら状況を把握できるようにしていく。まず，対話文の読み取りの発問を通して，大まかな内容を把握させる。次に，推論発問を通して，対話文の状況を読み深められるように指導する。読み深めることができるようにするために，ことばの持つ意味やニュアンスに関する発問をする。本題材で取り上げる現在進行形については，既習事項をおさえる発問をし，本題材で扱うことばが持つ意味やニュアンスと比較できるように工夫する。このように，Ⅱ期前期では取り上げないことばが持つ意味やニュアンスを推論発問として取り入れることで，内容理解が深化すると考える。以上のような指導を通して，ことばが持つ意味やニュアンスが英語と日本語の1対1対応ではなく，言語の使用場面に応じて様々なとらえ方や使い方ができることを理解できるようにしていく。このことがⅢ期の対話場面等の状況理解を深める考え方の「足場づくり」と考える。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. Warm-up （3分） □phonics の音読練習をする。	○音と文字が一致しているかどうか生徒の発音を聞き取り，必要に応じて指導する。
2. Review （8分） □1minute talk をペアでする。 Topic: What is your family doing now?	○あいさつ，アイコンタクト，ジェスチャー，あいづちをしながら，英語のみで会話しているのかを確認し，必要に応じて机間支援する。
□男女1名ずつと1minute talk をする。	○現在進行形の形が確認できるように be 動詞と ing の部分はゆっくりと話す。

□現在進行形の意味・形・用法を確認する。 3. Introduction (5分) □対話文を読んで、問いに答える。 ・対話している2人の名前は？ □新出語句を確認する。 4. Comprehension (30分) □対話文を読み、発問に日本語で答える。 □対話文を音読練習する。 □さらに3つの発問に日本語で答える。 【発問】対話中に「間」を置くことができます。 その場所に「/」を入れて、さらにその理由を答えなさい。 〈予想される反応 () 内は理由〉 ・ I'm coming. の後 (Luke が移動しているから) ・ for pedestrians の後 (場面が変わっている) 【発問】 I'm coming. は何を意味していますか。 〈予想される反応〉 ・ Luke が移動している ・ Luke が Emi のところへ来ている 【発問】「Emi と Luke の関係は？」 〈予想される反応〉 ・ 親子 ・ 連れ子 ・ Luke は留学生で Emi はホストマザー 5. Consolidation (4分) □英文を音読練習する。	○次のポイントを板書する。 ・ be 動詞+一般動詞 ing ・ 「～している」→行動が完結していない ・ My family is watching TV at home now. ○対話文を音読させることで、新出語句に注目できるようにする。 ○内容に関する問いを与えることで、音読の際に登場人物が誰なのかをとらえることができるようにする。 ○アクティブボードを利用して、発音と意味をしっかりと把握できるようにする。 ○机間支援しながら内容を把握できているのかを確認するとともに、指名する生徒を選んでおく。 ○語句のつながり等に気をつけながら音読できているかを確認し、適宜机間支援する。 ○「間」を置く位置を考えさせることで、場面が変わっていることに気づかせる。 ○対話文中の going と coming を取り上げたり、移動が入ることで時の流れに着目したりできるようにして、意味を捉えやすいように工夫する。 ○波線部の now に着目できるように板書して、推論できるように工夫する。 ◆対話文の状況を理解している。 【外国語理解の能力】 ◆現在進行形の意味を理解することができる。 【言語や文化に関する知識・理解】 ○音読を通して、本時の内容をふり返らせる。
--	--

参考文献

- 松井真人. 『山形県立米山女子短期大学紀要』 48, 19-30, 2012
- 田中武夫・田中知聡. 『英語教師のための発問テクニックー英語授業を活性化するリーディング指導』. 大修館書店, 2009
- 田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸. 『推論発問を取り入れた英語リーディング指導』. 三省堂, 2011
- 田中茂範・佐藤芳明・阿部一. 『英語感覚が身につく実践的指導ーコアとチャンクの活用法』. 大修館書店, 2006